

「水辺の散乱ゴミ指標評価手法マニュアル」の発行に際して

2004(平成 16)、河川や海岸における散乱ごみ(プラスチックなどの人工系のごみ)の実態を把握するために、「水辺の散乱ゴミ指標評価手法」を開発しました。本マニュアルは、昨今のプラスチックごみによる海洋汚染問題の深刻化を踏まえ、同手法を広く活用していただくために新たに編集、発行したものです。また、国外での活用を想定し、英文マニュアルを同時に発行しました。尚、発行の経費には、第 18 回日本水大賞国土交通大臣賞の副賞を充てました。

「水辺の散乱ゴミ指標評価手法」の開発経緯

2003(平成 15)年から 2004(平成 16)年にかけて、最上川流域等をフィールドに、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の発議による「水辺における散乱ゴミ等の指標化」に向けた検討を実施しました。検討に先立ち、山形河川国道事務所と特定非営利活動法人パートナーシップオフィスの間において協議を行い、パートナーシップオフィスが開発経費の一部を負担するなど、同手法の普及を図っていくための工夫を重ねました。

同手法の開発に至る手順は、以下のとおりです。

- ①検討会の設置(関係者は下表のとおり)
- ②フィールド実験に用いる漂着ごみの確保(山形県酒田市内の最上川河口部)
- ③フィールド実験の実施(山形県南陽市内の最上川河川敷)
- ④同手法マニュアル案の検討、作成
- ⑤同手法による試行調査の実施(「最上川 2005 ゴミマップ」への反映)

検討会等の構成

所 属 等	
行政関係	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
NPO 関係	JEAN/クリーンアップ全国事務局 特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム 特定非営利活動法人庄内海浜美化ボランティア
学識経験者	金沢工業大学環境システム学科教授
活動実践者	幸来会(山形県南陽市)※ 美しい山形・最上川フォーラム
事務局	特定非営利活動法人パートナーシップオフィス

※印は、フィールド実験時のみ

評価の表示方法

ランク	該当するごみの容量は「レベル」と同じ。 場所の清潔さのランキングをイメージして表示する場合に用いている。 例えば、山形県の海岸漂着物対策推進地域計画では、「海岸清潔度＝ランク」として表示している。
レベル	該当するごみの容量は「ランク」と同じ。 韓国では同手法による実態把握調査を行った際に、ごみの容量の大小として表示している。